

市長退任あいさつ

このたび、私は8月19日をもって任期満了により、富士見市長を退任いたします。平成20年8月に市長に就任させていただき、2期8年にわたり、発展し続ける富士見市のまちづくりを進めてこられたのも、ひとえに市民の皆様のご理解とご協力の賜物と、心から感謝を申し上げます。

私は、市長就任時から「富士見市を元気にそして魅力ある市にした」という思いで、市民目線で徹底した行財政改革を行い、就任時あった市の借金は、41億円から平成27年度には36億円まで減少し、95億円も

の借金を削減することができました。まず、自らが率先垂範して行財政改革に取り組み覚悟を決め、市長給与の30%カット、交際費の削減、黒塗りの公用車の廃止などに取り組んでまいりました。また、退職金については税金を差し引いた残りの全額を市に寄附する予定です。こうした行財政改革を自らしつかり推し進め、市の事業においても無駄のない効率的で大きな効果を生み出す施策の実施に舵を取ってきたことが、私の政治理念である「子供にツケをまわさない」という、次世代の子どもたちに



さらなる負担を負わせない行政運営につながったと実感しております。

また、「子育てするなら富士見市で」を合言葉に、保育所の増設、放課後児童クラブ待機児童ゼロの達成、中学生までの医療費無料化、小中学校へのエアコン設置など、教育・保育に関する支援施策や環境整備の充実に努めてきました。

さらに、元気で魅力あるまちづくりを進めていくため、一度白紙撤回となりました大型商業施設の誘致に向けて、全身全霊をかけて取り組んでまいりました。市民の方や商工会を初めとする各種団体の方などに説明会や意見交換会を丁寧に行わせていただき、その結果、地域の皆様や隣接の皆様のご協力もあり、これだけ大きなプロジェクトの成功につながったということに、今でもとても感謝をしております。

今まで持っていた市の魅力に「らぼーと富士見」などの新たな魅力が加わり、日本全体で人口減少が進む中、本市の人口は年々増加し、市の構想よりも5年早く11万人に達しました。まさにいくつもの魅力あふれる施策が実を結び、選ばれる市となったことの現れであります。

私は、市長に就任した時から「天の時は地の利に如かず 地の利は人の和に如かず」という孟子の言葉を胸に、常に職務に取り組んでまいりました。富士見市は都心に近いうえ、豊かな自然も残っているという素晴

らしいポテンシャルを有しており、それは天の与える好機に勝る地の利と言えましょう。そして何より大切なのは人の和であります。私の任期中には、リーマンショックや東日本大震災、市民総合体育館のメインアリーナの屋根全面崩落事故など、様々な困難がありました。市民の皆様、町会長や民生委員・児童委員をはじめとする各組織・各機関の皆様、そして議員各位のご支援やご協力があり、そこに全職員が丸ごとって課題の解決に取り組んできたからこそ、今日の市の発展が成し遂げられたと思っております。

こうして、多くの皆様に支えられてきたおかげで、私はこの8年間で全力で職務を全うすることができました。退任後は一市民として、さらなる富士見市の魅力あるまちづくりに貢献できる活動をしてまいりたいと考えております。

終わりに、市民の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしますとともに、皆様からいただきましたご厚情、ご支援、ご協力に重ねて感謝とお礼を申し上げます、退任のあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

富士見市長

星野信吾